

日露文化交流 十勝から4人

【東京】2018年の「日本におけるロシア年」を前に「日露文化交流のタベ」が7日、都内のセルリアンタワー東急ホテルで開かれた。出席者はロシア料理に舌鼓を打ちながら、コサックダンスなどロシアの伝統的な歌や演舞を楽しみ、交流した。

ロシアで各種鉱山事業な



ロシア国立クバンコサック合唱団のパフォーマンス

どを運営するエネルギー会社En+グループが主催し、日ロ両国から経済人など約150人が出席した。

ロシアと縁が深い北海道・十勝から、林光繁十勝毎日新聞社会長・主筆、林克彦北海道ホテル社長、萩原一宏萩原建設工業常務、スノーピーク地方創生コンサルティング(新潟県三条市)社長を務める帯広の後藤健市氏が列席した。

裏千家茶道や琴と尺八の演奏が披露された。En+グループ代表のオレグ・デリパスカ氏が「ロシアでの日本文化の関心は高まっており、さらなる日ロ友好に期待する」とあいさつし乾杯した。キャビアやボルシチ、ピロシキなどロシアの味覚が振る舞われた。

日本初来日の国立クバンコサック合唱団がパフォーマンスを披露した。

(原山知寿子)